平成　26　年度

1　自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3790200020		
法人名	医療法人社団誠和会		
事業所名	グループホーム　ほのぼの		
所在地	香川県丸亀市土器町東3丁目621番地		
自己評価作成日	平成26年3月31日	評価結果市町受理日	平成25年3月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/37/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=3790200020-00&PrefCd=37&VersionCd=022

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人香川県社会福祉協議会
所在地	香川県高松市番町一丁目10番35号
訪問調査日	平成26年8月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

理念の「のんびり　ほがらか　いい暮らし」をモットーに、利用者も職員も一緒に笑顔で過ごせるように取り組んでいる。医療との連携が密に取れ、安心した環境を提供し、可能な限り自由でその人らしさを尊重した生活が送れるよう支援している。

「のんびり　ほがらか　いい暮らし」を理念に掲げ、利用者がその人のペースで穏やかにゆったりと過ごせ、一日に1回以上笑顔がでるように取り組んでいる。自治会に加入して地域活動を行い、近所宅に手作りおやつのお裾分けをするなど、地域や近所との交流を大切にしている。幼稚園児やボランティアによるフラダンス、腹話術など、多くのイベントを催し、地域の方も来所して楽しんでいる。母体法人の医療機関が向かいにあり、連携が密に図られており、安心して生活を送ることができる。職員間のコミュニケーションは良く、情報の共有も図れており、毎月カンファレンス・研修会を実施するなど、職員の資質の向上と事業所の質を高める姿勢がうかがえる。職員の気配りが感じられ、家族的で温かい雰囲気の事業所である。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
		○	2. 数日に1回程度
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている （参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	分かりやすい理念を職員一同で考案して、良く見える場所に掲げて共有し、その人らしい生活ができるよう個々の生活向上に努めている。	法人の理念を、職員全員で事業所に適した分かりやすい理念に作り変え、共有している。職員は、利用者一人ひとりのコミュニケーションと笑顔を大切にし、その人のペースと力にあった生活が送れるよう理念を具現化し、日々実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所での外食やスーパーの利用、自治会の回覧板を回したり、手作りおやつを近所へお裾分けするなど、利用者ができる活動を行い、交流を心がけている。	近隣の葬儀の手伝いや小学校の運動会、公民館行事等に参加するとともに、事業所の行事を案内するなど、地域との繋がりを大切にし、交流を図っている。また、幼稚園児やボランティアの訪問、実習生等の受入れなども積極的に行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域のコミュニティーや学校の行事に参加したり、実習生の受け入れをしたりしている。また、ホームの行事のパンフレットを回覧し参加を促して、ふれあう機会や理解が図れるように努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月ごとに開催し、自己・外部評価の取り組み状況や活動状況の報告等を行っている。また、サービス支援や地域の支援について意見交換を行い、向上につなげている。	定期的に開催し、事業所の活動状況・行事予定の報告、市役所からの伝達事項などを行うとともに、意見交換をしている。メンバーから質問や提案は、行事、防災活動などに活かされている。	運営推進会議での意見・要望、助言、課題などを、より事業所のサービス向上に活かすため、現状の内容を発展させる会の持ち方や会議録の工夫等を期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	グループホーム連絡会や運営推進会議を通じて相談や助言を貰うなどして、協力関係を築くよう取り組んでいる。	運営推進会議、グループホーム連絡協議会、市が主催する研修会などで情報交換や相談し、協力・助言が得られる関係を築くよう取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部研修を行い、身体拘束や行動制限について職員全員で話し合い、理解を深めている。日々の支援の中でも注意深く話し合い、取り組んでいる。	研修を通して、身体拘束・行動制限について職員の意識は高い。利用者への対応について職員間で話し合い、お互いに注意しあっている。玄関にチャイムを設置しており、施錠はしていない。外出する利用者の行動を見守り、納得した上で事業所に帰ってもらえるよう支援している。	

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待について研修を行い、見逃さないように話し合っている。職員同士でも注意しあい、根気よく対応しながら防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部の研修など、機会があるごとに出席して、皆に報告し、勉強している。権利擁護の必要なケースは今の所ないが、学んでいきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者や家族と時間を取り、説明や話し合いを行い、理解・納得をされたうえで契約を交わしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	カンファレンスや家族会を開催し、利用者や家族の意見や要望を聞き、運営に反映させている。日頃から会話していき、意見を出しやすい雰囲気作りをしている。	3か月ごとに開催している家族会や日々のかかわりの中で、利用者・家族の意見・要望を聞くように努めている。意見等はカンファレンスで討議し、運営に反映させている。家族に、利用者の近況などを記載した「ほのぼのだより」を毎月郵送している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンスや研修などの時に何か気づいたことがあれば意見や提案を出して、皆で検討し反映させている。	管理者・職員の関係は良好である。カンファレンス（月１回、全員参加）、研修会以外にも随時職員の意見・提案を聞く機会と姿勢を持ち、意見・要望を運営に反映させるように努めている。事業所外の研修にも積極的に参加し、質の向上に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は勤務状況や実情の把握に努めて評価し、手当てや休暇など、職場の環境や条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内外部研修の参加を促し、職員の力量に応じた知識・技術の向上の機会を確保し、スキルアップにつなげている。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修やグループホーム連絡会などの機会に交流し、情報交換や勉強会を通じてサービスの質の向上につなげている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期の段階より十分にコミュニケーションを取り、不安なことや困っていること、要望を把握し、本人が安心できる環境や関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前に家族と話し合い、家族が求めていることを理解し、ニーズにあった対応を心がけて関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の思いや困っていることを相談し、入居時の必要な支援を見極め、適切なサービス支援や対応を心がけている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	残存能力を活かした援助を心がけ、自宅での生活と遜色ないように家事や食事などを一緒に行い、共に生活する関係作りに取り組んでいる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族の間に入り、良好な関係づくりのサポートをしたり、普段から状況・状態の把握をしてもらえるようにして、一緒に本人を支えていくように心がけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みのある場所へ出かけたり、近隣で買い物をするなどしている。また、家族の協力を得て帰宅したり、墓参りに行くなど、本人の希望に沿うようにしている。	事前に利用者や家族から、馴染みの場所などについて情報を得ている。墓参りや希望の場所に出かけられるよう、家族会で家族に協力依頼をし、馴染みの場所や人との関係が継続できる支援に努めている。	

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性を把握し、会話を持てるような場面作りをしたり、協力して作業を行ってもらうなど、関わり合い、支え合うような支援に努めている。孤立したり、トラブルも未然に防ぐような対応を心がけている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居しても、それで終わりにせず、遊びに来てもらったり行事に誘うなどしている。必要に応じて相談を受けたり、連絡をとりフォローしたりしている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	（9）	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話や行動観察により、一人ひとりの思いや意向を汲み取り、支援するように心がけている。また、困難な場合は家族に聞いたり、職員間でも検討し、把握に努めている。	日常会話や表情・行動から一人ひとりの思いや意向を汲み取り、外出・帰宅（外泊）など、本人の希望が反映できるよう支援している。タクティールケア※を実施し、心地よさや安心感をもたらすよう努めている。 ※スウェーデン発祥のタッチケア	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にはこれまでの暮らしをお聞きして、また、日々の生活では会話や関わりの中で察したり、家族から情報収集を行ったりして把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々変わることがあり困難な面もあるが、様子観察や行動記録、申し送りやカンファレンス等により現状把握して、その人なりの最善の方法を探り、よりよいケアに努めている		
26	（10）	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族に希望や要望を伺い、本人や家族、職員等を交えたカンファレンスで意見を聞き、課題や方向性を検討し、それを反映したプランを作成している。	毎月、職員がモニタリングを行い、3か月ごとに本人・家族を交えた担当者会で介護計画を見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に日々の様子やケアの状況、気づきなどを、その都度介護記録や申し送りノートに記入して、職員間で共有し、改善点を見出していくようにしている。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族のその時々のニーズにより、相談しながら臨機応変に対応するようにしている。家族の状況をふまえて柔軟な支援を心がけている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	保育園児との交流、防火訓練の参加、地域のボランティアの方々の行事への協力、自治会への参加など、地域資源を活用し、豊かな生活がしていけるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族が希望される医療機関に受診できるよう支援している。かかりつけ医と連携を取りながら、適切に医療を受けられるように対応している。	かかりつけ医との継続を大切にしているが、向かいにある協力医療機関に変更する利用者が多くなっている。医療機関との連携を図り、利用者の状況や変化に応じて適切な医療が受けられるよう支援している。歯科は、協力医療機関・かかりつけ医ともに往診に来ている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホーム内や病院の看護師に状態報告や相談をし、適切な受診や看護を受けられるようにしている。連絡ノートの活用やカンファレンスの参加にて現状把握に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には、安心して治療や生活ができるように、病院関係者と情報交換や相談を行い、連絡を密に取り、共有している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事前に本人・家族と話し合い、事業所にできることを説明しながら方針を共有していき、本人・家族の意向を踏まえ、医療機関と連携し、チーム支援に取り組んでいる。	入居時に本人・家族と重度化・終末期のあり方について話し合い、事業所でできる可能な範囲について説明し、同意を得ている。事業所でできる可能なケアを実施し、対応困難になった場合は、医療機関との連携を図り、チームで支援できるように取り組んでいる。	

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを作成し、定期的に研修を行っている。訓練は、研修時や必要に応じて行い、初期対応ができるようにしていっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防火訓練を行ったり、機会があるごとに地域の防火訓練や災害対策の会合に参加したりしている。月1回、利用者を避難場所へ誘導しての避難訓練も行っている。	年2回、夜間を想定した防火訓練を実施している。近隣の住民に訓練予定日を回覧し、地域住民の参加を得ている。自主的に月1回利用者を避難場所へ誘導、搬送する避難訓練を実施しており、防災に対する意識は高い。	現行の防災訓練、避難訓練を継続するとともに、地域の具体的な役割について運営推進会議等で話し合うなど、地域との協力体制の強化を図ることを期待したい。
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊敬の念を持って接し、人格や誇りを傷つけないような言葉かけを心がけている。トイレや入浴は個別にして、プライバシーを損ねないように注意し、対応をしている。	一人ひとりの人格を尊重し、その人に応じた言葉かけや対応を行っている。各部屋にトイレがあり、プライバシーは保たれている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分自身の思いを表してくれるように、決め付ける言葉遣いに注意し、選んでもらえるような場面作りや意思を汲み取るようにして働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人のペースで生活できるように、本人の意思や思いを尊重した、希望に沿った時間を過ごせるような支援を心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髭剃りや散髪の支援をしたり、化粧品を使ってもらうなどしている。自分の好きな服を選んで着てもらったり、好きな服装を把握したりして、その人らしさが保てるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や片付けなどを職員と一緒に行い、利用者の力を活かし分担しながら行っている。また、外食や流しソーメン、焼きソバ、お好み焼きなどを取れ入れ、楽しめるように工夫して行っている。	一人ひとりの力に応じ、食事の準備、配膳等を職員とともに行っている。嗜好、食事形態、盛り付けなど、食べやすく食欲が増すよう工夫している。希望メニューやおやつ作り、外食を取り入れ、楽しく食事ができる工夫をしている。	

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量のチェックや水分摂取に気をつけて、一日を通じて確保できるようにしている。難しい利用者に対しては食事の工夫をしたり、栄養補助食品の利用などを行い、個別に準備し補っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声かけや介助にて、一人ひとりの状態や状況に応じたケア支援をしている。義歯の方は就寝前に入れ、歯洗浄のケアもしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表や利用者の様子・パターンを見ながら、その都度声かけや誘導にて排泄の支援をしている。なるべく失敗を減らし、自立へ向けた支援を心がけている。	一人ひとりの排泄パターンを把握し、タイミングを見ながらトイレへ誘導するなど、排泄の自立にむけ支援している。夜間も定期的に声をかけ、自室のトイレに誘導している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給や適度な運動、食事の工夫などで便秘の予防に努めている。排泄チェックをして、薬の調整も行い、個々にあった対応をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	その都度お聞きしながら、本人の希望やタイミングに合わせ支援している。声かけや介助を工夫し、楽しんで入れるように個々にあった対応をしている。	入浴回数、入浴時間は利用者の希望に合わせている。利用者の状態に応じて工夫をし、全員が楽しんで入浴ができるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安眠を取ってもらえるように、なるべく日中活動を促したり、環境を整えたりしている。また、その時々の状況や希望に応じて昼寝や休息、個々に合った安眠を取ってもらったりもしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりに合った服薬支援を行い、症状の変化の確認を行い、医療との連携に努めている。看護師に薬の内容の説明を受けたり、研修やカンファレンスでも機会を設け、理解に努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴、力を活かした役割を持ち、生きがいや達成感の喜び、楽しみごとなどができるよう支援している。一人ひとり、好きな嗜好品も好きな時に摂ってもらえるよう個別に支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物やドライブ、外食など希望にそって出かけられるように支援している。また、家族の協力を得ながら、墓参り、外食、帰宅などしてもらい、本人の希望が叶うように努めている。	ドライブ、買い物、菖蒲園での散策など、利用者の希望にそった外出支援を行っている。日課として、散歩や向かいにある医療機関でのリハビリを組み入れて地域の人との交流を図ったり、家族の協力のもとに外出や外食、帰宅するなど、利用者の希望に沿えるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の協力・相談を得ながら、利用者の力量や希望などを考慮のうえ、本人が管理したり、ホームが管理して使えるよう個別に対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者のかけたい時に電話をかけられるようにしたり、かかって来た時に取り次いだりしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やホールなどに季節の花を生けたり、時季ごとの展示物や観葉植物などを配置している。ホワイトボードに歌や飾りを施し、一緒に歌ったり、温度調節、換気、障害物などにも注意し、居心地よい空間作りを心がけている。	共用の部分は整理・整頓がなされ、清潔である。季節の置物、観葉植物が置かれ、また採光もよくて全体が明るく、換気、室温調整がされている。ソファーが置かれ、ゆったりと穏やかで快適な状態が保てるよう配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルとソファーを置き、利用者同士でお話をしたり、一人でゆったりと新聞を読むなど、自由にくつろげるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた物や愛着のある物を、家族や本人と相談して持って来てもらい、居心地よく過ごせるように努めている。	居室にはトイレ・洗面所・エアコンが設備されている。自宅で使用していた物やテレビ、フットケア用品など、お気に入りの品を持参し、本人が居心地良く安心して過ごせるよう配慮している。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	目印や貼り紙をしたり、状況に応じた環境整備をして自立支援を心がけている。また、カンファレンス等でその都度話し合っていき、本人にとって安心した環境でスムーズに生活できるように支援している。		